

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番 1 1	福山市立鳳中学校
最終更新日		2026年（令和8年）2月13日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	・思考力・判断力・表現力 ・他者を理解し、関わる力 ・へこんでも立ち直る力
中学校区としてめざす子ども像及び現状並びに課題についてよく分かった。 積極的な情報発信を行い、保護者や地域と更なる連携協力を推進することを期待している。	地域の方に見守られながら穏やかに成長し、地域のために貢献してみようとする児童生徒が多い。 いっぽう、粘り強さに欠け、すぐに諦めてしまう傾向がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。」 ・論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え、主体的に行動できる。
		中学校区として統一した取組等	・児童生徒が必要な情報を読み取り、適切に表現する「学びづくり」の推進 ・自尊感情の高揚へつなぐ「クリーンプロジェクト」の推進 ・多様な価値観を認め合う集団の育成

Ⅲ 自 校

ミッション	
郷土を愛し、変化の激しい社会を他者と協働しながら自律的に生きる生徒を育てる。	
学校教育目標	
翔び立つ ～ひたむきに 前向きに さわやかに～	
現 状	
＜生徒＞ ・地域の方に見守られながら穏やかに成長し、クラスや集団のために貢献してみたいと考える生徒が多い。 ・生活の中で成すべきことについて、正しい判断基準を持つ生徒が多い。 ・人間関係で悩む生徒が多く、一度こじれると修復したり、人の目を気にしたりする生徒が多い。 ・家庭でSNSやスマホを長時間使用する生徒が多い。 ＜授業＞ ・他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることについて価値を見出すことができる。 ・下学年の学習内容について積み残しをしているために、現在の学習内容を習得できない生徒がおり、学力の二極化が見られる。	

育成する 資質・能力		①思考力・判断力・表現力 ②他者を理解し、関わる力 ③粘り強く物事に取組む力
めざす 子ども像	①③	何事も粘り強く取組むことができる。
	①②	責任感をもって、自分の役割を果たせる。
	①②	あいさつをしたり、相手を認めたりできる。
	①②	何事も自分事として捉え、協力して成し遂げることができる。
研究	テーマ	主体的に学ぶことのできる生徒の育成 ～生徒自身が成長を実感できる充実した振り返りを通して～
	内容等	・充実した振り返り活動を行い、生徒が学びを深めることのできる授業を展開していく。 ・教員がめざす生徒像を具体的にイメージし、発問や展開を工夫し授業を構想する。
めざす授業の姿		・学びを深める問いがある授業（生徒自身が教科の面白さを実感する問いがある） ・学びを深める振り返りがある授業（自らの学びを調整しようとする場面がある） ・ゴールを明確にした授業（目指す生徒を意識し授業展開を構想している）

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力を入れた 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入れた 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	主体的に学ぶ 生徒の育成	★	継続 見直	生徒が自らの成 長を実感できる 授業づくり	・各教科で振り返り 活動を工夫し行う。 ・振り返りの質向上 のため、実践例の共 有、検討を行う。 ・1教科1研究授業 を実施し、授業力の 向上を目指す。	・関連項目の生徒・教 師アンケートの肯定 的回答を80%以上	・「授業の振り返りを通 して、自分の成長 を実感できる」肯定 的回答 95% ・「授業の振り返りを通 して、生徒の成長 を実感できる」肯定 的回答 100%	3	3	研修や研究授業の設 定を通して、振り返 り活動の充実に取り 組んできた。現在の 取組を継続するとと もに、より学びの深 まる振り返り活動の 在り方について検討 していく。	・「授業の振り返りを通 して、自分の成長 を実感できる」肯定 的回答 90% ・「授業の振り返りを通 して、生徒の成長 を実感できる」肯定 的回答 100%	3	3	3	今年度行った1教科1研 究授業や振り返りにかか わる研修や取組を継続す る。振り返りの質向上の ため、先進校の実践を参 考に、振り返りをする上 での注意点をまとめ、職 員間で共有・実践する。
5	自己有用感の 高い生徒の育 成	★	継続 見直	他者と協働する ことができる生 徒の育成	・各行事での振り 返りを活用し、生徒 自身が「自己有用 感」を実感するとと もに、自己や学級の 改善目標に取り組 めるようにする。 ・「道徳」、「学活」等 の学習を生かし、情 報モラルについて 日常的に考える機 会を設ける。	・生徒自身による 学 級 状 況 の「 把 握」、「改善取組」の 実施 100% ・「道徳」、「学活」等 の学習に情報モラ ルに係わる内容を 取り入れる。 ・関連項目の生徒 アンケートの肯定 的回答を80%以上	・生徒「責任を持って 自分の役割を果たし ている。」91% ・保護者「生徒の道徳 性を伸ばすために努 力している。」93% ・各行事で振り返り を実施し、縦割りを 活用してメッセージ カードを送り合うな ど取組を進めてい る。	3	3	・生徒の振り返りや 頑張りを全校生徒に 伝えていくために視 覚化していく。 ・生徒への評価のタ イミングをタイムリ ーに行う。	・生徒「責任を持って自 分の役割を果たして いる。」100% ・各行事で振り返りを実 施し、縦割りを活用してメ ッセージカードを送り合 うなど取組を進めた。	3	3	3	縦割りの行事や掃 除などを活用して 役割分担やリーダ ーシップの育成を 意図的に行ってい く。
1	生涯を通して 健康で安全な 生活を送ること ができる生徒 の育成		新規	自らの健康や安 全について適切 に評価し、改善で きる生徒	・外部講師による 講義を積極的に 取り入れる。 ・基本的な生活習 慣を整える意識 を持たせる取り 組みを行う。	・講義の振り返り で、学んだことを今 後どのように生か していくか考えら れた生徒90%以上 ・関連項目の生徒 アンケートの肯定 的回答を80%以上	・どのように生 かしていくかを 考え、記述でき た生徒が 90.8%であ った。 ・朝食を毎日食 べる82.5%、 週1回以上運動 をしている 79.1%であ った。	3	3	保健室来室時の聞 き取りから生活習 慣について個別に 指導をしたり、委 員会等を利用し、 睡眠調査など生活 習慣について意識 する取り組みを行 ったりした。現在 取り組んでいるこ とを継続する。	・学んだことをど のように生かしてい くか記述できた生徒が 89.9%であった。 ・朝食を毎日食 べる79.8%、週1回以上 運動をしている 77.7%、6時間以上 睡眠をとっている生 徒は94.4%であ った。	3	3	3	委員会等を活用した取 り組みや、保健室来室 時の個別指導などの現 在の取り組みを継続す る。保健や体育の授業 等も活用しつつ生活習 慣を整えることの意義 について理解を深めら れるようにする。
1	地域・保護者 と協働した学 校づくり		新規	コミュニティ・ス クールの仕組み づくり	・関係小学校長と 連携し、年3回の 学校運営協議会 の形を整える。 ・育てたい児童生 徒像を地域と共 有し、体験活動実 施の際には、目標 と活動を整合さ せる。	・年3回の学校運 営協議会の在り方 についてその都度 協議し、方向性を 模索する。 ・体験活動毎に目 標と活動の整合性 について振り返 る。	・第1回学校運営 協議会では、鳳中 学校区のも目標に ついて学校運営協 議会で説明した。 ・学校運営協議 会が充実するよう に、校長が事前 協議をした。	3	3	第2回学校運営 協議会では、地域 の方と協働でき ることについて、 協議する予定で ある。	・第2回学校運営協 議会では、小学校 の学力補充につい て依頼したが、依 頼内容の実現には 至らなかった。	2	2	2	・地域と学校双方 ができることで ないことを精査し、 持続可能な取組を 考えていきたい。

1	持続可能な学校づくり	★	新規	教職員が本校で勤務してよかったと思える学校づくり	・組織として教育活動を行う。 ・生徒や授業等について学び合い、相談できる職員室文化を構築する。	関連項目の教職員アンケートの肯定的回答80%以上	・リーダー会での意見・取組状況を確認、情報の共有を密にし、主任層を中心に活動を進める体制づくりに努めた。 ・職員室での日々の情報交流や連携を若手教員や中堅・ベテラン層と共にあたり前に行える雰囲気づくりに努めた。	3	3	主任層を中心とした若手教育の育成を行い、より横のつながりを強めた教職員集団・組織を目指す。	・「鳳中で仕事ができてよかった」92.3% ・「めざしたい職員室文化が鳳中学校の職員室にはある」84.5% ※めざしたい職員室文化 ・環境が整っている。 ・バフハラがない。 ・気遣いができる。 ・交流、連携ができる。	4	4	4	わだかまりなく教育活動について相談し合えるような職員室を創造するために、教頭を中心としてめざしたい職員室文化について定期的に振り返り、相互承認について言葉化する取組を行う。
---	------------	---	----	--------------------------	--	--------------------------	--	---	---	---	--	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。